

保護、保護の包囲網

各地で雨後の筈のように増えている保護の掛声、それ自体は決して悪いことではないと考えられるが、こう増えてくると何が大事でどう締めくくりをつけるのかが気になってくる、今では確実に体の良い昆虫採集愛好家の締め出し以外の何物でもないと思われるようになってきた感がある。それでも関東地方はあまり影響がなかったが、今画策されているのは特に愛好者の多いブルー系統のシジミで群馬県のアサマシジミと山梨県のゴマシジミである。

狭い地域なのか村単位くらいかはたまた県単位なのかも詳細はわからない、群馬などは県単位となるとヒメギフチョウと同様でその時期他の蝶を目当てに行っても白い目で見られかねない。これはつらいですね。ゴマは始まるなら（遅かりしの感もあるが…）おそらく明るいブルーの大きな個体の日の春か茅ヶ岳産が一番候補に挙がりそうです。

ゴマなどは環境整備もさることながら蟻の生態をよく知り同時に保護していかねばならないので非常に難しいと思われるが、保護運動の中核にいる方々には派手で目立ってやりがいがあるのではなかろうか？

個人的に保護運動に加わっている方も何人かいらっしゃいますし、この問題について一度会で討論してみるのもよいかと思っています。もちろん昔から長年昆虫採集をやっていたたくさんお持ちの方とこれからという方では考え方に大きな差もあるでしょうし、写真のみで採らない方もおります、また私どもがやっている動植物すべてを含めた自然への啓蒙と保護ではまた違いますし、専門の科学者でも色々な考えがあるかと思えます。おのおのどう楽しみどう接触して行くかの目的の持ち方でも違いますし、お互いを尊重しつつ仲間同士トラブルのないよううまく行動したいものと常々考えさせられている今日この頃です。

ゲリラ豪雨

地球温暖化のせいかどうかは定かでないが梅雨あけが早く猛暑となった今年の夏は各地で記録的な豪雨が続き河川の氾濫や山崩れなどがありました。河川などに多く依存するミヤマシジミやクロツバメなどの産地崩壊などについて知りえた情報などがありましたら是非皆さんにご披露していただければ幸いです。何年か後にはいなかったところに発生などということも逆にあり得ますよね。

* 新入会員（宜しく願い申し上げます）

白石勝彦 〒359-1132 所沢市松が丘 2-14-13 T:04-2923-4254 HT:090-2212-3323

k-shira@xpost.plala.or.jp

* 住所変更

* 例会予定（会場の都合等による変更を含む）

10/21 11/11（第2火曜日）12/16（なんでもセリ会）2009.1/20 2/17 3/22（日、昼間の総会兼例会）
零回内容については追ってご連絡しますが、多数のご参加をお待ちしておりますのでよろしくお願い申し上げます。

* 重要なお知らせ

2008年度会費未納の方が30数名おります。このままですと会の運営に支障をきたすと共にNO.52会報は送付されません、お心当たりの方は下記へ至急ご納入くださいますようご連絡いたします。（一般¥4000、学生、女性¥2000）

郵便振替、00180-0-67713 グループ多摩虫

* 新聞紙上より

クマゼミさらにも北上
08.9.13読売(9)
クマゼミの分布



北関東でも確認 温暖化影響か

クマゼミの分布
従来の生息地域の北限
(2002年の環境省調査を基に作成)

立自然史博物館提供の生息分布に異変が起きています。気象情報会社の調査では今夏、以前は生息しないとされた北関東などでも確認された。地球温暖化の影響とみられるという。

クマゼミは、国内のセミの中で最大とされ、全長6〜7センチ。黒い体に透明の羽を持ち、西日本を中心に平地から低い山地に生息する。これまで、神奈川県や千葉県など関東南部が生息域

の北限とされていた。「ウェザーニューズ」(東京)にはこの夏、気象情報会社の配信サービスを受ける会員から、石川や富山県でもクマゼミを見たとの情報が多数あった。このため、8月、全国約160万人の会員にクマゼミの写真と音声付きの報告を求めたところ、1793件の報告が寄せられたという。

内訳は、関東が約500件、東海と近畿がそれぞれ約300件、北信越が約100件、中国・四国が約200件、九州が約200件、沖縄が約50件。報告数そのものが生息分布を示すものではないが、生息域外とされてきた新潟県長岡市や三条市、茨城県北茨城市、栃木県日光市などでも報告があった。これまであまり見かけなかった東京の都心でも多数確認された。

また、国内で最も身近なアブラゼミとの比較で、東海から九州一带の会員から「以前はアブラゼミより少なかったクマゼミだが、最近はその数が逆転した」との報告が約100件寄せられたという。

同社によると、2004〜07年、東京の8月の平均気温は28.2度で、30年前より約1度上昇。1970年代の大阪の暑さと同様という。昆虫は植物と違い移動するため、気象の変化を把握しやすい。広報担当者とし、地球温暖化により、クマゼミの生息域が北上したと分析している。

関東でも被害報告

家庭にあるティッシュペーパーの箱に、なぜかアリがたかる——こんな現象が最近、各地で報告されている。西日本に多いルリアリと見られるが、温暖化の影響なのか、最近は関東でも珍しくなくなったようだ。

さいたま市内の男性(73)は今年春、自宅1階の和室で、枕元に置いたティッシュペーパーの箱の表面や中に、アリが数十匹たかっているのを見つけた。引き戸のサッシの下から入ったと見られ、はらっても2、3日はたかり続けたという。引き戸の敷居に殺虫剤をスプレーすると入ってこなくなりましたが、7月末にまた発見。男性は「こんなことは初めて」と首をかしげる。

アリが群がるティッシュ箱

このアリはルリアリと呼ばれる種類。専門家らで作る日本蟻類研究会(事務局・金沢)によると、体長2ミ程度。体色は黒色で腹部に光沢がある。主に西日本に分布しているという。

西日本のあるティッシュペーパー製造販売会社によると、被害は以前は愛知県以西の西日本で多かったが、去年からは関東での被害の報告もあるという。実験を行い、専門家にも聞いているが、原因ははっきり分からない。関東でも被害が起きているのは、温暖化の影響でルリアリの分布域が広がっているからではないか」と同社。



ルリアリ (「日本産アリ類画像データベース」より)

業界大手の日本製紙クレシア(東京)にも同様の被害例が寄せられている。同社では、「ルリアリは樹皮の裏や枯れ枝の腐った部分などに巣を作る習性があるという。ティッシュペーパーは木材パルプが主原料。箱に一枚一枚詰められて中が薄暗くなっている状態が、樹皮の裏などに似ているのではないかとみている。日本製紙クレシアでは、同社製品を使っていて被害に遭った場合、希望者に対して、天然のヒバから抽出した油を塗った「アリよけ用受け皿」を試験的に送っているという。アリの通り道を家庭用洗剤でふく、箱の置き場所を変えるといった方法で被害を防ぐようにアドバイスしているメーカーもある。

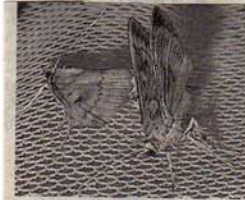
ガだって奏でるラブソング

08.8.13 記

ガのオスが求愛する際、メスに微弱な超音波で「ラブソング」を奏でていることを、東京大学と森林総合研究所などの研究チームが発見した。米科学アカデミー紀要に発表した。

研究チームは超高速カメラを使い、トウモロコシの害虫でもあるアワノメイガのオス2隻を写真し、東京大学提供の行動を観察。垂直に立てた羽で、羽と胸にある特殊な形の鱗粉を1秒間に70回以上もこすり合わせ、40〜60Hzの超音波を出すことを突き止めた。

近づいてきたオスが求愛すると、普通メスは受け入れるが、鱗粉を取り除いて超音波を出せなくなったオスの場合、メスはしばしば拒否した。この時、オスの超音波を人工的に合成した音を聞かせると、メスは求愛を受け入れた。



超音波は半径3cmの狭い範囲内にいるメスしか聞き取れず、ひそやかに求愛している。森林総合研究所の高梨琢磨主任研究員は「超音波を打ち消す音を出して交尾を妨げられれば、害虫を音で退治できる可能性もある」と話している。

超音波で求愛 東大など研究チームが発見

まちかど
四季
十月廿八日

菅野 徹

昔から、お盆に欠かせない
化とされてきたミノハギは、
早丈約1尺。長く花の穂を伸
はして咲く。

個々の花は、直径1センチほど
だが、群がって咲くので見応
えがある。日本とユーラシア
大陸の湿地に、広く自生する
が、花壇にも栽培される。中
国名の「水枝錦」は、水面に
映る姿を言い得て妙。

お盆には、新暦、月遅れ、
旧暦の3通りがあるが、旧暦
のお盆はかなり廃れた。今年
は、9月12日から15日までが
旧暦のお盆である。旧暦は、
月の満ち欠けに依るから旧盆
は、常に満月の頃になり、ご
先祖様の道には月明かりが用
意される。

およそ元禄（1688～1
704年）以来、秋の夜にす
なく鈴虫、松虫などをまとめ
て、秋虫と呼び、今に至って

秋虫の王 鳴き声に哀愁

いる。

なかでも、古くから、秋虫
の王と讃えられてきたのが、
カンタンである。無色透明の
羽を直角に立て、ロロロロロ
口と、小さな鈴を振るよう
しかし長く、一区切りし、2
分ずつ、一晩中、鳴き続ける。
体長2センチほど、草色、瘦身。
姿も声も、弱々しいが、鳴き
声は地を這うように100尺
ほど届く。

鳴く音は、麗しいかげに、
哀愁を帯び、一度耳にすると、
忘れ難くなる。多分、明治以
降、中国・唐代の邯鄲の夢の
故事になぞらえて、カンタン
と呼ばれ始めたのだろう。た
しかに、その鳴き声には、夢
見るような、遠くへ誘うよ
うな趣がある。

カンタンは、東京や横浜で
は、山地に行かねばその鳴き
声は聞けないものだったが、
なぜか、40年ほど前から、京
浜一帯の町なかでも鳴くよ
うになった。

通りすがりに、広さが50尺
四方以上、丈の高い草がぼつ
ぼつと荒地があれば、目を登

ましてみて下さい。鳴き声が
聞けるかもしれない。

ただ、葉陰で鳴くので、鳴
く姿を見るのは難しい。私も
ここ40年来、今回を加えて2、
3回しか見ていない。日本だ
けでなく東アジア一帯にいる
ようで、あるテレビ番組で、
シルクロードのトルファンで
鳴いているのが耳に入ったこ
とがあった。

アメリカ・ミズーリ州の自
然保護団体発行のカレンダー
の10月5日には、さあ、野原
に行つて、コオロギのトリル
（ふるふる音）を聞きましよ
う、とある。南欧では、カン
タンにそっくりな姿かたちの
同属のオエカントス・ペルケ
ンスの優しく美しい声が愛さ
れている。

虫の音を愛でるのは、日本
人だけの特技であるという説
もある。ところが、どうやら、
この点には、民族差はなく、
耳を傾けるかどうかの個人差
だけがあるらしい。

（生物エッセイスト＝写真
も。毎月第2日曜日に掲載し
ます）



クスの葉の破れから半身を乗り出し、鳴くカンタン